

12月の果実の見通し

平成29年11月22日現在

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
りんご類		6,435	多い	6,670	339	93%	293	727	11.3%	中生種は一部産地で雨や日照不足による出遅れも見られたが、概ね11月上旬で終了となって中旬には各地の「サンふじ」が出揃ってきた。数量的に不足感はなく、前年よりも価格がこなれていることからまずまずの販売となっている。12月上旬にかけてはギフト需要で引き合い強まり、中旬以降も相場は堅調推移。今後中心となる青森県産は糖度も高く食味の充実は例年以上、小玉果の比率が高そうなので袋詰めなど様々な企画販売も可能で消費の裾野拡大も期待できる。
西洋なし		829	かなり少ない	720	330	105%	383	696	84.0%	山形産「ラ・フランス」、新潟産「ルレクチエ」ともども12月のギフトシーズンには数量はあり、販売期間においても十分に対応が出来る環境である。しかし、「ラ・フランス」が若干年内早く終了するので注意が必要である。また「ラ・フランス」が小さく「ルレクチエ」が大きいのでこれにも注意が必要。
いちご類		2,443	かなり多い	2,544	2,092	102%	1,903	-	-	全国的に前年は定植時や生育途中において大雨や台風の被害があった。本年は気温が早く下がって初出荷は早かったが、11月の生育状況においては曇天と日照不足で遅れが出ている。12月上旬からは各県の産地が出揃い、徐々に出荷増えて中旬にはピークに入ってくるだろう。また、全体に肥大状況は良く大玉傾向にある。
干し柿		598	平年並	539	2,033	102%	2,056	40	6.7%	開花時期における柿の着荷状況は良かったものの10月の台風の影響が少しづつではあるが加工作業が始まってから傷果や軟果が見え始め加工用が取りずらく一部減少傾向にあり、また昨年に比べ小玉でもある。